

2022 年度分散コンピュータ博物館認定式

旭 寛治 | 歴史特別委員会 幹事

情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館の認定制度

現存する情報処理技術関連の貴重な史料に対して、その保存の努力を称えるとともに末永く後世に伝えることを目的として、情報処理学会歴史特別委員会によって設けられた制度。第1回の2008年度は国立科学博物館で、翌年からは全国大会の場で認定式を行い、情報処理技術遺産には認定証の盾を、また分散コンピュータ博物館には認定書とプレートを、それぞれ関係者に贈呈している^{1)~3)}。

全国大会2日目の2023年3月3日の午後、大会優秀賞等の表彰式に続けて同じ枠の中で分散コンピュータ博物館の認定式を実施した。2019年度はコロナ禍の影響で全国大会の現地開催が中止となり、情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館の認定式も行われなかった。その後、20年度、21年度は情報処理技術遺産も分散コンピュータ博物館も新たな認定がなかったため、今回は3年ぶりの認定式であった。なお、情報処理技術遺産の認定はなかった。

□ 分散コンピュータ博物館

今回認定された分散コンピュータ博物館は次の2件である。

- 京都産業大学ギャラリー：バッチ処理時代に大型汎



京都産業大学ギャラリー内観

用機を使ってどのように大学での事務処理・教育利用が行われていたかを一般にも分かりやすく伝えることのできる史料が展示されている。TOSBAC-3400 Model40が周辺機器も含めたシステムとして展示されているほか、当時の学生の履修登録用の説明映像により、エンドユーザがどのようにデータを入力していたかが分かるようになっている。壬生のむすびわど館内にある。

- 科学技術継承財団「マイコン博物館」と「夢の図書館」：「マイコン博物館」は、日本では珍しい公開された私設のコンピュータ博物館。1970年代の8bitマイコンをはじめ、算盤や計算尺から機械式計算機、真空管式アナログ計算機、ミニコンからワークステーションまでの個人用計算機を展示している。「夢の図書館」は、100年分の技術雑誌3万冊を所蔵する技術雑誌専門の私設図書館。個人のコレクションだったが、一般財団法人を設立し移管した。



「マイコン博物館」の展示は、発表年代順に並べて展示している

□ 私の詩と真実

例年と同様に、認定式の前の時間帯に「私の詩と真実」のセッションを開催した。これはコンピュータパイオニアの大先輩をお招きして、若いころの研究生の思い出や今の若い世代に伝えたい経験談などをお話いただくシンポジウムである。第70回大会から開催しており、第15回目となる今回は、本会前会長の江村克己氏と電気通信大学名誉教授の弓場敏嗣氏が講演された。

江村氏は「人と社会のための研究開発～性能追求から価値創造へ～」と題して、NECの研究者として光通信の高性能化に取り組まれたこと、その後、性能追求から社会価値創造へと時代の要請がシフトする中でそれに対応した研究開発マネジメントに挑戦されたことを話された。社内食堂での雑談が研究の進展に役立ったという裏話も披露された。また、本会会長時代を振り返られ、社会とイノベーションの在り方が変化しているので学会も進化することが必須になっていると注意を促された。そして学会としての技術ビジョンの発信、研究会間の連携、新

しい領域の開拓、他学会等との連携強化、会員スペクトラムの拡大と人材育成への貢献等の必要性を説かれた。

弓場氏は「昭和の乱世の片隅で、静かに生きた研究者がいた。」と題して、太平洋戦争開戦の年にお生まれになったところから話を始められ、定年退職後の現在に至るまでの一生を振り返られた。大学卒業後いったん野村総研に入られたが「人生の美学」に基づいて転職を決意、研究者に挑戦する覚悟を決めて電気試験所（現産総研）に入所された。同所ではデータ駆動型並列計算機 SIGMA-1 や EM-4 等を開発。独創性はあったが、実用性の検証ができなかったことが心残りだとのこと。その後、電通大教授を経て、退職後はスペインサンチャゴ巡礼等の「大いなる旅」を楽しまれていると話され、終わりに冒険心を持って研究に挑戦するようにと若い世代への期待を述べられた。

パンフレット「情報処理技術遺産」（写真）や Web サイト「コンピュータ博物館^{☆1}」に、認定された遺産や博物館の解説記事と写真が掲載されているので、ご覧いただきたい。

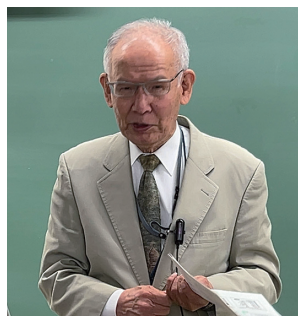
参考文献

- 1) 和田英一：情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式、情報処理、Vol.50, No.5, pp.369-374 (May 2009).
- 2) 旭 寛治：2018 年度情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式、情報処理、Vol.60, No.7, pp.656-658 (July 2019).
- 3) 旭 寛治：2019 年度情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館、情報処理、Vol.61, No.7, pp.762-764 (July 2020).

(2023 年 3 月 26 日受付)



「私の詩と真実」講演者
江村克己氏



「私の詩と真実」講演者
弓場敏嗣氏



認定式の様子

☆1 <https://museum.ipsj.or.jp/>



情報処理技術遺産パンフレット

旭 寛治（名誉会員）
asahi@fw.ipsj.or.jp

（株）日立製作所基本ソフトウェア本部長、ストレージソリューション本部長、（株）日立テクニカルコミュニケーションズ代表取締役等を歴任。1999 年本会理事、2005 年副会長、歴史特別委員会幹事、コンピュータ博物館実行小委員会主査、本会フェロー。



分散コンピュータ
博物館プレート